

エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

Heroldo de HEL

N-ro 177

Majo 2018

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- ・表紙、Enhavo/目次 P. 1
- ・2018年度初夏合宿のご案内/文責：後藤純子 P.2
- ・Retrospekte al nia historio/時には 歴史を/HOŜIDA Acuŝi P.3
- ・El "LEONTODO" 1960 Decembro P.5
以下、昔の記録を読んでみましょう
(セケリー氏同道記)
- ・Akompanante S-ron Tibor Sekelj en 1960/1960 年 P.10
S-ro Tibor Sekelj と同行の思い出/HO ŜIDA Acuŝi
- ・ドクガ 2/Dokuga 2/翻訳：横山裕之 Trad. : P.11
JOKOJAMA Hirojuki
- ・Danke ricevitaj (星田淳扱い読みたい方はご連絡ください) P.15
- ・Infana kanto "Koropokkur" el aina fablo / P.16
童謡「コロボックル」紹介/HOŜIDA Acuŝi
- ・「コロボックル/Koropokkur」楽譜 P.17
- ・Protokolo de la 4-a Komitato Kunsido de HEL / Kasjaro2018 P.18
2018年度 第4回北海道エスペラント連盟委員会 議事録
- ・【編集後記/Redaktanto parolas】 P.20

2018年度初夏合宿のご案内

HEL の伝統行事、初夏合宿の季節になりました。今年も当会員の柴田さんのご厚意で札幌市西区の柴田内科循環器科研修センターをお借りして、下記の要領で実施します。

この機会に、エスペラント仲間と共に各自の学力を高めようではありませんか！（入門、初級、中級、会話、子どもクラスを予定）

尚、同時に行います入門講座の案内チラシを同封しますので、お友達やお知り合いに参加を呼びかけて頂けますようお願いいたします。子どもさんの参加も歓迎します。

記

- 日時：2018年6月30日（土）13：00～18：35
7月1日（日） 8：30～12：30
- 会場：柴田内科循環器科研修センター（札幌市西区西野1条7丁目）
西野皮膚科クリニック駐車場の横。地下鉄「宮の沢」駅から徒歩15分弱、又は、JRバス「西野2条6丁目」から徒歩10分、又はJRバス「西町北17丁目」から徒歩5分。
- 時間割：チラシのとおり。6月30日12時20分から受付開始
- 参加費：資料代として500円
- 申し込み：資料作成のため、参加を希望される方は、事前に
後藤純子（TEL/FAX:011-790-8056）又はHELの電子メール（Hokkaido_esp_ligo@yahoo.co.jp）にご連絡下さい。
どちらか1日のみ、又は途中から及び途中迄の方も歓迎します。
宿泊を希望される方は、申し出て下さい。
- 駐車スペースあります。（チラシの裏に地図あり）

（文責：後藤純子）

Retrospekto al nia historio.....

時には 歴史を振り返ってみよう

HOŠIDA Acuŝi

Ni legas verkojn de Tibor Sekelj ne malofte. Jam pasis 58 jaroj post lia vizito al Hokkajdo. Ni iom rememoru.....

先日の委員会で Tibor Sekelj が話題にでた。彼が北海道に来たのは 1960 年、半世紀以上前のこと。彼は当時の日本のエスペラント運動に新鮮なショックを振りまいて全国をまわって行った。あのころを知る人は少なくなったが ちょっと振り返ってみましょう。

北海道での Sekelj の写真を紹介します。

① 1960 年 4 月 27 日、白老・宮本エカシのチセ（観光施設）にて



立っている人：左端加茂節子（室蘭 E 会）、アイヌ少女、アイヌ少年の後ろに T. Sekelj、宮本エカシ、川崎、佐々木（2 人室蘭 E 会）。しゃがんでいる人：左端星田（苫小牧）、ちょっと空いて佐藤、須藤（2 人室蘭 E 会）。

② 日時、場所不明 (Sekelj 夫人から中国の e-isto 経由で受信)



左端より：早川昇、江口音吉(2人小樽E協会), T. Sekelj

③ 日時、場所不明 (Sekelj 夫人から中国の e-isto 経由で受信)



左側の方は不明、右は T. Sekelj

El "LEONTODO" 1960 Decembro

以下、昔の記録を読んでみましょう。

セケリー氏同道記

Hoŝita

S-ro Sekelj が来る。この日よりは F-rino 加茂から受取っていたが、いよいよ当日になるともう三年も全くやらなかった Esp 会話が出来る期待と、うまいくいかなという不安が心中に渦巻いた。

12月28日朝苦小牧から白老人。聖蘭の Samideanoj 来る一吋待つ。やがて聖蘭から着いた仲間と共に札幌から来る S-ro Sekelj を迎える。あるほど、朝日夕刊の通りたわいーと思つた。すぐわかるその *miteno* —

Bonvenon, S-ro Sekelj!

— *Ho, multe da esp-istoj ĉi tie!*

Ni estas samideanoj el Muroran kaj Tomakomai. とは云つたものの苦小牧は吾一人では一吋いばれない。

Kie mi povas deponi la pakefojn?

— *Jen, momenton!*

私は初めて外人と Esp. 会話の機会にめぐまれたのは京都の Kongreso の時。もう十年近い昔だった。香港の米大使館の青年の *mi scias* (ミスニアス) という発音が一寸わからず戸惑つた事。Esp 会話となると思ひ出すが、さすが Sekelj 氏の発音は正確で *intonacio* も尻手なのに感心した。

白老コタンへ。といつても例の観光コースしかない。S-ro Sekelj の *antropologo* としての仕事としてこの位のものであればだけの収穫になるのかわからぬが、徳本道長の説明をさし(翻訳で西側になると適当に南略北したかとも若干ある)いくつかの歌の録音。彼のドイツ製ポータブルテープレコーダーは *bona funkciado* を保つていた。例の「どりカ」の歌や、*lutkanto* 類の説明を彼にしても、彼は一度それを聞いて、*bonstila esp.* になおして彼の口からレコーダーに吹込まれる。会話毎に *testo* されている形で冷汗ものだが、ナニ UEA 役員相手に一騎打だと思えば相手に不足はない。(尤も彼にしては不足だったろうが)

さて一応コタン観光コース終り訪ねた *Aina poeto* も不在とあつて、それではすぐこのまゝもう一つ *Aina vilaĝo* の平取へ—ということになつた。もう時間も10分と余さぬところ、それつと走る。あやてて *deponejo* から *pakefoj* 受とつて列車に一。こゝで聖蘭の *Samideanoj* と別れ、Sekelj 氏と私のみ。

さすが国際的活動中の UEA 役員、語学的能力は格段とみえ、東京、日本

~13~

話の手紙をかいて、「これでいいか」ときく、又論外人の日本語、一寸おかし所はあるにしても、なかなか立派なもの。

苦小娘で乗りかえ、ホームで 30 分程待つ。私の方は、水曜もう 1 日追加を会館に頼みおるべく一寸橋外へ。帰ると彼氏列車を間違つてのつている。Ne, ĉi vagonaro ne estas mia! La mia venus post la ekveturo de ĉi vagonaro! というわけであわてて下りる。ホームの人たち、どうも英語ではないわい — とよつてきてさく人あり。こういう所 Esp. 空気のチヤンス。

平取は妙見川の谷にひらけた田舎がた街道そいの街だつた。古い kristano なる animo 方に厄介になる。彼はアイヌの kanto, danco に興味あるようだが、ウタリを興めて演技させるには只ではすまぬ。カムイノミには当然テウウ少くも 1, 2 本とお札若干必要 — となるし、シムセ (danco) となれば各人何百円かど必要となる — とは kristano の説明である。それだけ出してくれれば世話をしてやる — という歳にとられたの状彼の氣にさわつたらしい。(尤も実体はそうである)

“Kiel vi opinias? Kiom ili gajnas de unu taga laboro?”

Mi supozas, nur kvar aŭ kvincent. Kaj nun, ili postulas tricent, aŭ kvarcent nur por unu ceremonio de dek aŭ dudek minutoj. Ili ja ŝtelas. Ili estas ŝtelistoj” と彼の意見は幸直である。私は答へに述べた。尤もこんな事はあまり名譽にならぬし、よい事ではない。彼等は、自分の正常な仕事をやめて呼ばれ、演技させられる場合は当然相当を報酬あるべきだとの考えが習慣になつてゐるわけで、それを一概に無視も出来まい。一寸説明してみたが返ち意見対立の形となり、Ĉu vi opinias, ke ili estas justoj? Kia estas via justeco? といった調子。前に Usonanoj が来た時に、報酬をくれて記録をとつた — との話を kristano からきいていたのを話して説明。Jes, Usonanoj havas multe da mono, sed mi ne povas pagi tiom multe. と彼は答えてその語は一息それ道。

平取一帯は農耕地が多いが、勇払原野のあの広大な原野は殆ど原始のまま。彼は不思議に思つたらしい。

Kial oni ne kulturas?

— Oni diras, ke la tero ne estas bona por kulturi.

Ne ĉie, kie kreskas nerbo, la tero decas por kulturi.
Mi vidis en Egiptujo kaj Pakistano, ke oni kulturas eĉ

dezertun kondukante akvon per kamalo, portante soilon
de alia loko. Japanoj ne emas kulturi, ĉu?

こそがしい。南拓漫蒙への軍や國家の互恵の少なさを説明したが理解してもらえたかどうか。

Ankaŭ en nia lando troviĝas unu distrikto nomata Montenegro, kie la loĝantoj ne emas kulturi.

— Do kiel ili vivas?

Ili vivas ricevante pension de la registaro. De malnova tempo Montenegranoj estis konataj kiel bravaj soldatoj.

Ankaŭ nun multaj Montenegranoj troviĝas en la registaro kaj ili sendas monon al sia hejmo.

チトーの下、勇者を轟かせたユーゴバルチザンのふるさとを不毛の地が多かつたらしい。

カムイノミの舞式をやるというアイヌ天婦の演技。酒がないと気分が出ないとの事、ウイスキーをついでやる。夜には又、その夫の方をよび歌をきかせてもらう。Sekelj氏のポータブルテープレコーダーの活躍である。

カムイノミにはいくら、歌つていくら、と pago はだんだんふえる。Kristanino の方から「さつと出さないよこの位ぢや失礼ですよ、焼酎もう2本位と500円位……」という風に。本人は歌っている。S-ro Sekelj によつてはこれが不愉快らしい。

Mi deziras vidi malnovan plugilon. Ĉu mi ne povas trovi?
と訳はさく。

— Kiam plugilon? Malnovfurman, faritan de ligno. 農家の薪屋などできいても、一寸今頃無理のようだった。

翌 29日は更に上流のコタン、ニ風谷へ。この小学校はきれいな建物だった。天皇誕生日のため休み、静まり返っている。

坂根先生といろいろ話す。アイヌの純血はここでも数人程度の少ないのだが、純血はこの学校の生徒の7割に当たる。アイヌ文化について、その遺産を直接みたいのが Sekelj 氏の希望だったが、今保存されているものはそれ程多くはないようであつた。それは何よりコタンの人たち、特に若い人達の気持ちにつながっている。彼らは、遂に昔からの民族的圧迫の歴史、明治以来も尚今につづく差別に対し、自らを和人と同化することによつてそれから脱出しようと考えている。アイヌ固有の文化などは、今のアイヌの多くの人によつては、いとわしき過去のものであり、それを棄て去つて、生活の

~15~

ア・マ・マと同化させて行く——そうすることが今の多くの若い人々の気持である。この意は、百万の箱詰めをもつ露降解放委員会の行き方あたりとは全く異つたもので、この自己否定的な考えからアイヌ文化の発展はおろか維持も困難になる。とすれば現在のこされてるアイヌ文化なるものが、現世物として、又学者の研究資料、背どう品として商品化してしまうことは当然理解される。我々が白毛、二風谷でみたものは、現に全くその通りのものであつた。

アイヌ文化を保持して行こうとする若い人K氏とその部落にいた。Sekelj氏は大いに喜んだ。Mi estas tre ĝoja vidi vin, penantian rezervi kulturajn heredaĵojn de aina gento. と彼はいつた。

あちこちにある品物が保存されていた。白老の水世の中であつたようなもの。一数は当然こちらの方が少ないが。「あそこは前死用ですからね、こちらのは違います……博物館からも頼まれて納めた事があります……」との事。頼まれて作つていふという木製の食器が仕事場にあつた。マホリや食器類に或も食指ぼうごいたらしく、談合の末若干頁とる話成立。ainaj kantojも録音。「白老のは観光客用のだ、こちらのと違う……」と歌も色々説明つきで録音。K氏の説明はくわしかつた。

彼又も ainaj ceremonioj, diservo をみたいとの事。口辺にいれずある老婦人の姿は更に Sekelj 氏の見にいづつたよう。しかれ日当一人400円位、統計日本世という pago の万の話をきめる前に人を集めてしまわれたので困るのは interpretanto である。K氏にその点は何處かいつたが、結局人は集まつてしまう。Kanto, ludo, カムイノミ——これはどこでも同じようであつた。「今日は皆輪映です。遠い国からのお客さんが来て、我々の祖先からの歌や遊びやらをやらせていただきました——ありがとうございます——」K氏からの挨拶であつた。Mi estas via parenco,…… ankau mi estas aino…… と Sekelj 氏もそのあごひげや豊かな胸毛を示したりして細後嬢。

いよいよ帰る支度。「一寸」とK氏。衆の定このまゝではすまをいわけ。「皆百分の仕事をやめて来ているんです。白老みたいに観光客相手の商売ならどうでもよいが、ここは違うんです。承だつて、おつき合ひにこれを半日仕事が出来なかつた。このままでは困るんです」結局、いわゆる「相場」の日当謝礼を……ということになるが、私もまさかこんな事を考へての帳中用紙とてなく、結局 Sekelj 氏に事情説明。支払いの費バス停留所へ向う飯はただだまつていた。

~16~

コクンの人達にしては、今迄国内西洋の学者、調査団が来た時でもそうだったし、これが当然の要求だつたであらう。Sekelj 氏にすれば、自らの民族的遺産の保存に努力している人達の、このような "avareco" (laŭ lia vortu) は感懐し得ないことであつたわけだ。

先にかいたが、このような被圧迫少数民族の生きる道が自己否定的な多数民族への同化か、自己の特殊性を誇張しての見世物化、両面化しかないとすれば、これがその一方の形であつた。

いつれにせよ、「見世物商売」の日老の方が、そうでない平取より報酬の要求において遙に少なかつた点は一寸面白い幸であつた。

ういでながら其後の Sekelj 氏の行動について佐藤エス会よりの報告に基いて記す。

27日平取から別かえした Sekelj 氏は 19時頃ひよつこりと東巨瀬の平田氏宅にあらわれた。佐藤氏、F-ino 加茂も兼まり輪面のアイヌ研究家林氏を訪ね、アイヌの資料等みたく上で一泊。

30日 F-ino 加茂の案内で登別へ。その夜は室蘭市内初音で親迎会。10名の Samideanoj が集つたが、日本語が出るに怒り舞え球を投げになる Sekelj 氏の前、みんな止むなくムリヤリ Esp. で話したのは苦しくとも面白かつた。平田氏、Sekelj 氏のあいさつの後、簡単な自己紹介。懇談のうちに f と g, l と r の発音のちがいの練習、佐佐木氏の発音機におさめた。kanto, ludo など楽しい会合であつた。

この2日間、彼は林氏宅に泊つたが、民族語を生活のみとときは、たいへんよい思い出になつたもよう。

5月1日、Samideanoj と室蘭港、水族館などを見学の後、洞爺へ戻つた。5月2日、Sekelj 氏来訪の経緯が専断と共に室蘭民報にのせられた。

~17~

Akompanante S-ron Tibor Sekelj en 1960

1960年 S-ro Tibor Sekelj と同行の思い出

HO ŠIDA Acuši

1960年の Leontodo の記事で あのころのことをいろいろ思い出した。

*周到な事前準備

あのころはまだ珍しかったポータブルのテープレコーダで歌や祈りのことばなどを記録し その説明も吹き込んでいた。白老では「ここにはアイヌの詩人がいる。会って話を聞きたい」と自宅へ行ったが留守だった。事前連絡まではしてなかったか。当時の私は知らなかったが森竹竹市さん。アイヌ語で詩を書く最後の人だったか、と思う。

平取では「古い生活用具、農業用器具はないか、ときかれたが見当たらず。

*機会あれば逃さず、すぐ調査!

SES-ano から聞いた話：吉原 SES 会長宅を出ようとして和文タイプがあるのに気付いた。20~30 のキーを両手の指で打つだけの欧文タイプに対し何百ものかな、漢字を打つ機械は「驚異」だったらしく、タクシーを待たせて次々に質問。みんなおおいにヤキモキしたらしい。

*エスペランチストはエスペラントを使うべし!

集まりの場で日本語会話になると「私はみなさんの話を聞きに来た。だが今みなさんが何を話しているか、私には何もわからぬ」と(もちろん Esp.で)文句が出る。当時の(日本の)E-istoj は Esp.会話をあまりしてなかった(今は?)。

*二風谷小学校・穂坂校長の話

ちょうど休日でゆっくりお話を聞いた。アイヌ民族と部落解放同盟の、圧迫(差別)に対する態度の違い(「同化」と「抵抗」)は今もはっきり思い出す。

*アイヌ文化保存に努力する K 氏

もう本名を出しても良からう。アイヌ出身で初めて国会議員になった萱野茂さんの若い日の姿でした。道内の博物館の展示品が老朽破損しているのを見て「古老の指導を受けて若い人が伝統的な品物を作っている」と売り込み、アイヌ青年に「仕事」と「収入」を与えた「目の付け所」は立派なものだった。

ドクガ 2

Dokuga 2

翻訳：横山裕之 Trad. : JOKOJAMA Hirojuki

北海道では、ドクガは留萌南部から空知南部を通過して日高を結ぶ線の南西部にいます。

En Hokkajdo, t.e. la plej norda parto de Japanio, pli norde ol 41 gradoj de la norda latitudo, la specio eŭprokto (la scienca nomo *Euproctis subflava*, la japana nomo "Dokuga"), t.e. la japana venennoktopapilio aŭ la orienta herbar-noktopapilio, vivas pli sudokcidente de la linio ekiranta de suda parto de la regiono Rumoi tra suda parto de la regiono Soraĉi ĝis la regiono Hidaka.

また、海岸線や平野部から低山地にかけての草原を中心に生息しています。Kaj ĝi vivas ĉefe en herbejo de marbordo aŭ ebena ĝis malalta monto.

ドクガの幼虫は、通常は、草原の中でハマナス、キイチゴ類、ノイバラなどバラ科の低木を食べています。

La eŭprokta larvo ordinare manĝas foliojn de malaltaj arboj de rozacoj kiel marborda rozo, rubusoj aŭ sovaĝa rozo en herbejo.

蚊、ブユ、アブ、スズメバチなどの昆虫は人に向かってくる昆虫です。しかし、ドクガは、人に向かってきません。気づかないうちにさわってしまい、その後しばらくしてから皮膚炎を発症するという厄介な昆虫です。

Homon celas insektoj kiel moskitoj, simulioj, tabanoj, vespoj kaj aliaj. Sed la eŭprokto ne celas homon.

Tamen, se oni tuŝas ĝin senkonscie, post iom da tempo ĝi kaŭzas haŭtinflamon(, aŭ dermatiton). Tiel ĝi embarasas homon.

つまり、普段は山菜探りや釣りなどでこのような植物のある草むらに入らないと、ヒスタミンのようなドクガの毒で被害にはあいません。

Oni ne suferas haŭtinflamon pro la eŭprokta veneno, inkluzive histaminon, krom se oni eniras en lokojn kun tiaspecaj plantoj por kolekti sovaĝajn legomojn aŭ kapti fiŝojn.

ところが、ドクガは時に大発生すると、バラ科低木のみならず、イタドリ、グミ、タンポポなど草原にあるものはほとんど何でも食べるようになり、これらを食い尽くすと、畑や住宅地内、駅や公園の芝生へ行くことがあります。

Sed kiam okazas grandmultobliĝa apero de eŭproktoj, ili manĝas preskaŭ ĉiujn foliojn en harbaro enhavanta foliojn de ne nur malaltaj rozacoj, sed ankaŭ poligonoj, eleagnoj, leontodoj kaj aliaj. Formanĝinte la foliojn, ili iros al kulturita kampo, loĝejo kaj gazono en stacio kaj parko.

すると、普段の外出時にも被害が発生します。

Sekve de tio eĉ kiam homoj nur iras eksteren, la sufero povas okazi.

幼虫が大きくなって毒針毛の数が増え、かつ分散・移動する 6~7月初めと、成虫期の 8 月には注意が必要です。

De junio ĝis la komenco de julio la larvo kreskas kaj la venenaj haroj multiĝas, kaj ĝi disiras kaj transmoviĝas. En aŭgusto ĝi fariĝas matura. Tiam oni devas atenti la venenajn harojn.

しかし、幼虫が大発生した後は、有効な防除法はありません。

Sed kontraŭ grandmultobliĝa apero de larvoj, ne troviĝas efika metodo forigi ilin.

薬剤を散布しても、死んで乾いた幼虫の毒針毛が風に舞い、幼虫と接触しなくても皮膚炎を発症します。

Eĉ se oni disverŝas insektomortigilon, la venenaj haroj de mortigitaj sekaj larvoj portiĝas laŭ la vento, kaj okazas haŭtinflamo sen tuŝeto sur la larbo.

そのため、こうなる前にドクガを発生させないようにしなければなりません。

Tial antaŭ tio oni devas fari, por ke eŭproktoj ne aperu multege.

普段から、幼虫のエサとなるイタドリやノイバラ・キイチゴ類を刈ります。Pro tio kutime oni devas falĉi poligonon, sovaĝan rozon kaj rubusojn, kiujn la larvo manĝas.

次に、9月から越冬後の翌 5月にかけて幼虫が集団を作っている時期に、草原やハマナスの回りなどを見回って、幼虫が多いか少ないか調べて、大発生するかどうか予想します。

De septembro ĝis la sekvajara majo post vintro, kiam la larvo amasiĝas, oni serĉas ĝin en herbejo, ĉe marborda rozo kaj aliaj. Tiel oni kontrolu, ĉu larvoj estas multaj aŭ malmultaj, kaj autaŭvidu, ĉu eŭproktoj multege aperos aŭ ne.

通常だと、見つけるのは大変ですが、大発生時は簡単にいくつでも見つけることができます。

Ordinare oni malfacile trovas ilin, sed kiam ili multege aperas, oni facile trovas iom ajn.

しかし、調査には経験が必要で、町内会や市町村など地域ぐるみで、計画的・継続的に行うのが理想です。

Sed sperto estas necesa por esploro. Estas ideale, ke oni kontrolas tion intence kaj daŭre tra tuta loka komunumo, t.e. asocio de loĝantoj, municipo kaj aliaj.

調査の結果、大発生と判断された場合は、なるべく早く薬剤による駆除を行います。

Se oni konstatas multegan aperon de larvoj laŭ la kontrolo, oni detruas ilin per insektmortigilo kiel eble plej frue.

その際、幼虫集団のみに直接十分な量の薬剤をかけるようにして、他の動物の生息地に影響を与えないようにします。

Tiam oni disŝprucigas insektmortigilon nur sur amaso da larvoj, por ke oni ne donu efikon al vivejo de aliaj animaloj.

また、薬剤が使用できない場所では、ビニール袋などを使って集団ごと捕まえたりします。

En neuzeblejo de insektmortigilo, oni povas kapti la amason per plasta sako aŭ aliaj. 町内会などで計画的に監視している地域も増えています。

Mutiĝas lokaj komunumoj kiel asocio de loĝantoj, kiuj intence observas tion.

また、保健所では、駆除に関する相談に応じてくれますし、大発生時には注意情報も発信しています。

Kaj la sanitarĉefo konsultiĝas pri la detruo. Ĉe la multega apero de eŭproktoj ĝi anoncas informon pri la averto.

札幌市の生息地域では、札幌市保健所、札幌市土木部、石狩支庁札幌土木現業所、北海道立衛生研究所が一緒に対策チームを作って、発生状況の調査をしたり、駆除などに取り組んでいます。

En la urbo Sapporo, la Urba Municipa Sanitarĉefo, la Urba Municipa Terkonstrua Sekcio, Sapporo Terkonstrua Oficejo de Isikari-Filia Gubernia Oficejo kaj la Hokkaido Gubernia Instituto pri Publika Sano kune organizas teamon por plano kontraŭ la multega apero. Kaj ili jen esploras ekestan staton de la larvo jen traktas rimedon por detruo, kaj aliaj.

もしドクガにさわってしまった（あるいはさわったかも知れない）時は、こすってはいけません。

Se vi hazarde tuŝetis la eŭprokton, vi devis ne froteti vian haŭton.

まず、弱い流水で刺さる前の毒針毛を洗い流します。

Komence vi devas forlavi la venerajn harojn antaŭ enpiko en vian haŭton per malforta fluanta akvo.

石鹸の泡で毒針毛を皮膚から浮かせて流したり、ガムテープに付着させるのも有効と考えられています。

Estas efike, ke vi jen flosigas kaj elfluigas la venerajn harojn el via haŭto en sapa ŝaŭmo, jen algluas ilin per glubendo.

その後で、皮膚科を受診しましょう。

Post tio bonvole konsultu vian haŭtan kuraciston.

症状に応じて処置してくれるので、かゆみも少なく、早く完治します。

La kuracisto aranĝas taŭgan kuracadon laŭ la simptomo, tial vi komplete saniĝas frue en malmultaj jukoj.

毒針毛が付いた衣類は、素材にもよりますが、洗濯しても毒針毛を完全に除去するのは困難です。

Kvankam depende de la vestaj materialoj, estas malfacile, ke vi perfekte forigu la venerajn harojn el vestoj, eĉ se vi lavas.

また、毒針毛は乾燥状態で 1 年以上無毒化されません。

Kaj vi ne povas nuligi venenon pro la venenaj haroj dum unu jaro en seka stato.

なお、より詳しい情報は、北海道立衛生研究所のホームページの特集をご覧ください。

Se vi volas scii pli detalajn informojn, bonvole rigardu la specialajn paĝojn en retejoj de la Hokkajda Gubernia Instituto pri Publika Sano.

<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/topics/dokuga1/dokuga1.html>

この記事は日本で唯一のアイヌ語新聞「アイヌタイムズ」の第67号(2017年9月15日発行)に投稿した「ドクガ2」の一部を修正し、エスペラント訳したものです。

Ĉi tiu artikolo estas Esperanta tradukaĵo el parta reviziaĵo de mia ainalingva artikolo "Dokuga2" en n-ro 67 (publikigo en la 15-a de sept. 2017) de la unika kaj sola ainalingva gazeto "AinuTimes".

エス訳にあたっては、星田さんと ENAJ(時事エスペラント勉強会)にご協力をいただきました。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

Mi faris la Esperantan artikolon kunlabore kun s-ro Hoŝida kaj ENAJ(Esperanta Novaĵo el Aktuala Japanio). Mi esprimas, ke mi dankas lian helpon sur ĉi tiu papero.

この投稿文は、機関紙の他に次のウェブページにも掲載予定です。

Baldaŭ la artikolo estos aprigita en nia organo kaj jena retpaĝo kaj aliaj. <http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index-j.htm>

<http://www.geocities.jp/aynuitak/>

なお、アイヌタイムズの連絡先は以下のとおりです。ご購入・ご投稿をお待ちしております。

Jen informoj de kontakto pri la gazeto "AinuTimes". Ni atendas vian abonon kaj kontribuon.

(購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗宛)

Adreso (por abono): Nibutani 80-25, Biratoriĉo, Hokkajdo, Japanio 055-0101

Nomo: KAYANO ŝiroo 電子メール:

ainuitak@yahoo.co.jp (横山・中継ぎ連絡先)

E-letero (por transsendo en japana traduko): ainuitak@yahoo.co.jp (Nomo: YOKOYAMA)

全記事の目次は、(Titoloj de ĉiuj artikoloj en la gazetoj estas jene:)

<http://www.geocities.jp/aynuitak/ContentsESP.pdf>

Danke ricevitaj (星田淳扱い、読みたい方はご連絡ください)

* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 335/
marto 2018, Internacia Gazeto de
Esperanto Jokohama (Hama-
Rondo), A4X4 頁、エスペラント文。
巻頭記事は「Hamologio」 denove
Prezentita/Sibayama Zyun'iti。
Prelego 欄は前号からの Miaj
Memoroj pri Prof. Ivo Lapenna/
Glauco Pompilio の後編[完結]。

* La Tamtamo; 第 5067 号、2018
年 3 月号、NPO 法人エスペラントよこ
はま会報。A4X8 頁、日本文。巻頭
記事は「ハマロンド創立 50 周年記念
行事・国際交流写真展(5 月 1 日～
7 日)について。「ひと味ちがった計画
言語—エスペラントと計画都市みな
とみらい」の連載開始。

* Mejlstono: 仙台 E. 会、2018 mar-
to n-ro 266, B5X8 頁のうち E. 文 4
頁半。トップ記事は「GRAVA
ANONCO: S-ro Teduka severe
Vundita/手塚孝さん交通事故(2 月
26 日)」。Ve, baldaŭan resanigon!!
2 月「マチノワブース」に出展、フラン
スの姉妹都市からの年賀状紹介。
連載中の EKZILITO は この号(3 回
目)で終わり。

* Ponteto (Bulteno de Esperanto-
Ligo en Regiono Kantoo) Marto
2018, n-ro 287 B5x20 頁,のうち E.
文 6 頁。トップ頁に「速報」として「中
国、棗庄(Zaozhuang)学院にエスペ
ラント学科が九月発足。中国教育省
の決定。歴史的な事件……」と佐々木
照央さんから。「Fafah からの手紙」
は茨城大学での研究が終わりマダ
ガスカルに帰国する、との挨拶。
「ジャンヌと会うまで/佐野久子」はテ
レビ番組でエスペラントに触れたフ
ランス女性を UEA の Jarlibro で追跡
して文通できた話。「ベトナム、北
部の田舎への旅/堀泰雄」は連載 2 回

目。

* NOVA VOJO :N-ro 549 aprilo
2018, EPA(エスペラント普及会)、A5
X26 頁のうち E. 文 6 頁。Prelego/
Kiel vigligi la movadon de infa-
Noj kaj adoleskantoj はソウル UK
での国際子供大会を成功させた S-i
no Songanta の講演、前号からの
続き。Zamenhof en Varsovio/
Roman Dobrzynski は新刊本の紹
介。

* sferilo 2018 aprilo: SFERO(サ
ンフランシスコ周辺の E. 団体)よりの
ニュース 4 月号。電子受信:英語と
エスペラント使用。4 月 7 日の月例会
予告と 3 月の例会報告など。

* 受講生通信; 第 177 号、2018-04
-01, 沼津エスペラント会、A4X12 頁
のうちエスペラント文(合計)1 頁半。
世界大会、日韓共同大会、関西大
会の案内を同封。札幌の S-ro
tyuuri, 「雪と戦っている」と たより。
中級で頑張っています。

* La Movado: 関西エスペラント連盟
(KLEG) 発行、N-ro 806 aprilo
2018, B5x20 頁のうち E. 文 4 頁。
巻頭記事は「千里山でお会いしま
しょう! 第 66 回関西エスペラント大
会/佐藤守男」。連載中の「楽しい
作文教室」はこの号で第 80 回。

Kajero Libwevola は Kio estas
Vera eduko(2)/KITAGAWA Syozi.
Japanaj eldonaĵoj en 2017/
SOMEKAWA Taatosi, 毎年その年
出た本を紹介しているが今回北海
道の e-istoj の名が多く出ているの
は「Leteroj de MITUISI Kiyosi」だ
ろう。書評「Hereditoj de silent-
Ado/伊藤俊彦」。1 月に亡くなった
小西岳さんの追悼文が 2 頁余。

* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 336/
aprilo 2018, Internacia Gazeto de

Esperanto Jokohama(Hama-Rondo),A4X4 頁、エスペラント文。

1 頁に紹介されている Hamalogio は「ヨコハマ学」とでもいうか、この号に載っている 寿町のドヤ街、Eseo 欄の富士塚の紹介など、面白い。

* La Tamtamo; 第 508 号、2018 年 4 月号、NPO 法人エスペラントよこはま会報。A4X10 頁、日本文。巻頭記事:「ハマロンド創立 50 周年に寄せて/柴山純一」、「国際交流写真展 2018のご案内」。第 110 回読書会(3月3日)報告は Julian Modest の“La viro el pasinteco”について。

* La Movado:関西エスペラント連盟(KLEG)発行、N-ro807 majo 2018.;B5x16 頁のうち E.文 4 頁。巻頭記事は「E.の為の情報技術・ズームを使ってみよう/belmonto」。Kajero *Libwevola* は Ambedkar/YAMAGUTI Sin'iti. インドでの仏教復活と反カースト運動との関係が理解できる。書評は“Zamenhof en Varsovio/渡辺克義”, 楽譜 Avo

Pramisto(船頭さん)は 1941 年発表の古い童謡。

* NOVA VOJO :N-ro 550 majo 2018, EPA(エスペラント普及会)、A5 X24 頁のうち E.文 3 頁。巻頭言は“第 2 回 IRUHA 国際集会(3月、タイ)の成果/奥脇俊臣”。別にこの集会の報告が 4 頁。前号から連載の Zamenhof en Varsovio/Roman Dobrzynski は 2 回目で終了。

* La 67a Esperanto-Kongreso en Regiono Kantoo: 6月2~3日 江東区豊洲文化センターで開かれる関東エスペラント大会の案内。

* Ponteto(Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo) Majo 2018, n-ro 288 B5x20 頁のうち E.文 11 頁は“Raporto el Kunming, Ĉinio/Alessandro Madella”, “Miraklo de Esperanto/YAZAKI Yoko”, “Raporto el Nepalo”, “論語世界語訳/佐々木照央”など。「堀さんの気ままエッセー」は「ネパールへの旅」がこの号から始まる。

Infana kanto “Koropokkur” el aina fablo / 童謡「コロボックル」紹介

HŌSIDA Acuŝi

唱歌「たき火」の作詞で知られる詩人・異聖歌の作品にアイヌ民話を題材にした「コロボックル」があります。日本エスペラント大会などでよく合唱指揮をしている牧野三男さんがだいが前に作曲した曲を紹介します。スペラント歌詞もつけてあります。一緒に歌いませんか。

コロポックル Koropokkur

興 聖歌 作詞
牧野三男 作曲
星田 淳 訳詞

♩=40

ゆっくり話すように



1. コ ロ ポ ッ ク ル は ふ き の し た の ー か み さ ま
2. コ ロ ポ ッ ク ル は こ び と の か み さ ま ー だ ー か ら
1. "Ko - ro - pok - kur, jam lo - ĝis sub la fo - li' de pe - ta - zit'.
2. "Ko - ro - pok - kur, jam ĉar es - tis li di - o de la nan'.

poco rit.



コ ロ ポ ッ ク ル は ふ き の し た の ー か み さ ま
コ ロ ポ ッ ク ル は こ び と の か み さ ま ー だ ー か ら
Ko - ro - pok - kur, jam lo - ĝis sub la fo - li' de pe - ta - zit'.
Ko - ro - pok - kur, jam ĉar es - tis li di - o de la nan'.

a tempo



こ だ も の す る こ と じ い つ と
り よ う て を お ひ ぎ に お ー い て
Ki - on fa - ras nun ge - kna - boj, vi - dis li
Li do me - tas si - ajn ma - nojn sur ge - nu'

poco rit.



じ い つ と じ い つ と ふ き の し た か ら ー ふ き の し た か ら
じ い つ と じ い つ と め ば か り ぎ ょ る っ と ー め ば か り ぎ ょ る っ と
sen vor - to kun sin - ten', sub fo - li' de pe - ta - zit' li daŭ - re nin ri - gardis."
kaj li ri - gar - dis nin nur li - aj ron - daj oku - loj li fik - sis nin de - te - ne."

a tempo



み て ご ざ ら っ し ゃ っ た げ な ー ー
み て ご ざ ら っ し ゃ っ た げ な ー ー
Es - tas ra - kon - to de la a - vin' por ni.
Es - tas ra - kon - to de la a - vin' por ni.

1. コロポックルは ふきのしたのかみさま
コロポックルは ふきのしたのかみさま
こどものすることじいっとじいっとじいっと
ふきのしたから ふきのしたから
みてござらっしゃったげな

2. コロポックルは こびとのかみさまだから
コロポックルは こびとのかみさまだから
りょうてをおひぎにおいてじいっとじいっと
めばかりぎょろっとめばかりぎょろっと
みてござらっしゃったげな

1. "Koropokkur, jam loĝis sub la foli' de petazit'.
Koropokkur, jam loĝis sub la foli' de petazit'.
Kion faras nun geknaboj, vidis li sen vorto kun sinten',
sub foli' de petazit' li daŭre nin rigardis."
Estas rakonto de la avin' por ni.

2. "Koropokkur, jam ĉar estis li dio de la nan'.
Koropokkur, jam ĉar estis li dio de la nan'.
Li do metas siajn manojn sur genu' kaj li rigardis nin
nur liaj rondaj okuloj li fiksis nin detene."
Estas rakonto de la avin' por ni.

※アイヌ語にはボとボの区別が無い

Protokolo de la 4-a Komitato Kunsido de HEL / Kasjaro2018

2018年度 第4回北海道エスペラント連盟委員会 議事録

日時：2018年3月18日（日） 13：10～14：10

場所：札幌エルプラザ2階 打ち合わせコーナー

出席者：横山（司会）、阿部、後藤（純）、後藤（義）、山下、星田、川合（記録）

【組織】（川合）

・入会0、退会0、ご逝去2（小西岳氏、山本昭二郎氏）。

正会員26、購読会員8、青年会員2、特別会員1、家族会員1（現在会員数：38名）。

【財政】（阿部）

・特記すべきことは、なし。順調に執行している。

【広報】（横山）

・HPのプロバイダ変更に伴い、カウンタが一時的に使用不能になったため、正確な数は不明だが、アクセス数はおそらく2か月前比+200程度。

・3月18日、メールマガジン第173号を409部発行した。RO「ことばの質問箱」からの転載や、歌集『若きウタリに』のE訳作業への参加の呼びかけ、など。

【情報・宣伝】

・木村護郎クリストフ氏の講演会（「Heroldo de HEL」 n-ro 176、p.2）の参加者19名のうち、HELからは4名。

【教育・研究】

・札幌E会（後藤（純））：『De Patagonio ĝis Alasko』を講読。参加者約10名。以前参加していた若い人は来なくなったが、学習資料を送っている。

・苫小牧E会（星田）：『Kredu min, Sinjorino!』の講読。参加者約4名。新しい人は会合には出ていないが、「ドリル式E文法」（JEI発行）で自習している。

【機関誌】（星田）

・3月18日、「Heroldo de HEL」 n-ro176を80部発行した。全14ページ中半分が横山委員長の投稿。

【年間計画】

＜初夏合宿＞

- ・開催日時を6月30日(土)～7月1日(日)と決定(会場が空いていて、かつ北大祭と重ならない日)。
- ・JEI 学力検定試験は、この合宿では実施しない。
- ・クラス分けは例年どおりとする。
- ・道内在住の非 HEL 会員 E-isto にチラシを送って参加を呼びかける。送付対象とその住所は JEI に問い合わせる。⇒担当：川合
- ・合宿の1か月強前に新聞社へ案内記事の依頼をする。⇒担当：後藤(純)
- ・チラシの下書きを作成し、次回委員会で検討する。⇒担当：後藤(純)
- ・チラシを配架(配布)する場所は、札幌エルプラザ、かでの 2.7、北大、地下歩行空間とする。
- ・北大でのチラシ配布は覚知頌春氏に依頼してはどうか(川合)。

＜北海道 E 大会＞

- ・開催日時を10月20日(土)～10月21日(日)と決定。
 - ・会場はかでの 2.7 の 503 号室(20日午後、連盟総会)と 750 研修室(21日午前、JEI 学力検定試験、21日午後、公開講演会)。
 - ・外部講師としてアレクセイ・モルチャノフ氏(ロシア)の招聘を交渉中(窓口：横山)。
- 氏は日本 E 大会(招待されている)の後に来道予定。ご本人の意思は確認済み(星田)。氏の旅費の一部は JEI から出る。一部は HEL で負担する。公開講演の通訳等は7月委員会で決める(後藤(純))。
- ・JEI 学力検定試験を21日午前中に実施する。現在までの受験希望者は5名(後藤(純))。受験者の内訳再確認・会話試験の録音は横山委員長が担当。会話試験の試験官は星田委員。事務手続きは後藤(純)副委員長。受験の申し込みは9月末まで受け付ける。

【次回委員会】

- 5月20日(日)13:00より、札幌エルプラザにて(部屋予約：2階、消費者サロンです。後藤純子)。
- 議題は初夏合宿、ほか。
- 同日10:00より機関誌の印刷を行う。

[編集後記/Redaktanto parolas]

*SES でよく読んでいる Tibor Sekelj の話から半世紀前彼が北海道に来たときの話に発展 (委員会)、その時の記事があったはず、と LEONTODO 1960 Decembro で再発見 (!?)、この号に再録しました。

*「コロボックル」は アイヌ民話を題材にした詩にエスペ란チストが作曲したもの。童謡風です。歌ってみませんか。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、青年会員 (26歳未満) 1500円、
購読会員 2000円、家族会員、失業者など割引 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

*Redaktas la Organo Fako de HEL

c'e HOSIDA Acus'i

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS: 0144-74-2539

Retadreso: hosidaacusio@kir.biglobe.ne.jp

*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 100, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

TEL-FAKS: 0123-88-3752

Retadreso: kunespere@olive.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm>

*Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

北海道エスペラント連盟

*編集: 連盟機関誌部

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

*事務局: 川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動サポートセンター ターケズ No. 100